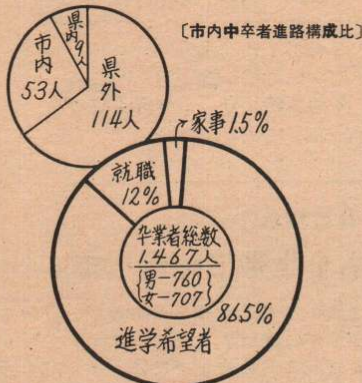


中卒者の就職・進学状況

少ない市内就職希望者



ことしも各学校の卒業期を迎えました。ことし市立中学校を卒業する生徒は1,467人、昨年の卒業生数に比べ118人の減になっているものの高等学校等への進学希望者は昨年より5.8%の増になっています。

一方、就職希望者はどの学校とも、進学への波にのつたせいもあり、昨年にくらべ7.4%も減っております。

中でも、市内へ就職を希望している生徒が、昨年の就職希望者数の105人から50%も減って、53人より少ないということは、市内の中小企業経営者にとっても大きな問題ではないかと思われまます(県外就職は、今年が昨年とほぼ同じで114名が希望している)

進学される方々の今後の努力に期待するとともに、若年にして未知の社会へ巣立つ就職希望者の方々に対しては、経営者はもちろんのこと、市民皆さんであたたかく迎え、良い環境のもとに彼らの能力を十分にばしていく陰の力にならうではありませんか。

＜市立中学校別進学・就職の状況＞………2月1日調査

学校名	卒業生数	高校進学希望者数	県外就職者	県内就職者	市内就職者	家事従事者
第一中学校	384	341	23	3	17	0
第二中学校	158	140	12	0	5	1
第三中学校	198	182	8	0	6	2
長木中学校	65	55	0	0	10	0
雷沢中学校	27	2	2	0	1	3
下川治中学校	48	41	3	1	0	3
上川治中学校	33	26	1	0	2	4
南中学校	138	111	2	2	1	2
成章中学校	150	109	24	1	10	6
花岡中学校	188	177	11	0	0	0
矢立中学校	78	66	8	2	1	1
計	1,467人	1,269人	114人	9人	53人	22人



成人病をなくしましょう

成人病といわれる脳卒中、がん、心臓病は、社会的にも家庭的にも中心となっている年齢層の人びとに多くしかも、死亡順位の上位にあります。

本市で、44年中の成人病で死亡した人を調べると

脳卒中	155人
がん	88人
心臓病	71人

となっており、いぜんとして死者全体のしめる割合が多くなっています。

このような現状にあって市では成人病を防ぐため、つぎのことがらに十分注意されるよう呼びかけています。

- (1)規則正しい生活をする。
無理のない仕事をし、適当にからだをやすめ、ぐっすりねむるようにする。
- (2)食べものは、かたよらないよう、栄養のバランスを考える。
とくに塩からいものをさけ、生野菜を食べる
- (3)寒さはどんな病気にもよくないから、部屋を暖かくするよう工夫する
- (4)精神の安定をはかり、酒、タバコはあまりのまないようにする。
- (5)定期的な健康診断をうけるとか、市で毎月行っている健康相談日を利用するなどして、早く病気を気づけ早く治療する。

幼児には日光浴を

春とはいっても、まだ日光も弱く、つい部屋にとじこもりがちです。おとなの健康管理のうえからはもちろん幼児にとっても日光浴はたいせつなことです。

とくに、幼児にとっておそろしいのはクル病にかかることで、これをふせぐには日光浴がいちばんです。日ごとに春めいてくるこれからの季節には、できるだけ戸外に連れ出して日光にあてるようにしましょう。

一心貯蓄組合が表彰される

44年度貯蓄優良団体として、一心町貯蓄組合(代表者、泉アイさん)が秋田県知事と県貯蓄推進委員から表彰を受けました。

晴れの表彰を受けた一心貯蓄組合は昭和40年に設立され、はじめは、100円毎月貯金からスタートしたものの、そのご各家庭の貯金目的も教育資金とか結婚資金に変わり、貯金額も各家庭によってちがってきておりますが、町内の方々のほとんど(125名)が毎月かかさずに、気ばらず、手まめに力を合せて貯蓄の習慣をつけたことが大いに認められたものです。

44年の一世帯当りの全国平均貯蓄額は109万円だそうです。わが秋田県は77万円で、全国平均を大幅に下まわっております。

一心町の受賞を契機に、みなさんもムダをはぶき、将来の幸せのため貯蓄にもっと目を向けようではありませんか。



万国博を楽しく見学するために

万国博の楽しい見方

日曜、祝祭日には約60万人の観客が予想され、会場内は相当混雑するうえ、会場周辺では大規模な道路交通のマヒや、駐車場の不足が考えられます。

そこで、万国博をより快適に楽しくご見学いただくために

- (1)なるべく平日にご覧ください。ナショナルデーや、スペシャルデーの催しは、平日にあります。
- (2)マイカーはなるべくおさげください。
- (3)入場券はさきで購入しておいてください。会場入口の入場券売所は相当混雑しますので、ご出発前に近所のタバコやさん、駅の売店、プレイガイドでお求めください。
- (4)ラッシュ時間帯はさげましょう。

(万国博覧会・広報部)

「人類の調和と進歩」をテーマに、アジアでは初めての万国博が、3月15日から9月13日まで大阪の千里丘陵で開かれます。

人類文化のオリンピックともいわれるこの万国博は、世界の国々がいろいろな趣向をこらした展示館を建設し、その国の産業、文化を紹介し、お互いに交流しあう意義深い祭典です。

参加国79カ国、会場の面積が330万平方キロ(約100万坪)は史上最大を誇るもので、全館の内部をザッと見るだけで50時間以上必要だそうです。したがって、午前9時から午後5時まで1日8時間見てまわったとしても6日間かかる計算になります。

日本万博メモ

- テーマ——人類の進歩と調和
- 参加国——世界79カ国
- 会期——45年3月15日～9月13日
- 会場——大阪府吹田市千里丘陵
- 面積——約330万平方メートル
- 入場者予想——約5,000万人
- 入場料——大人 800円(23才以上)
 - こども 400円(4才～14才)
 - 青年割引 600円(15才～22才)
 - 夜間割引(午後5時以降の入場者)
 - 大人 400円
 - 青年 300円
 - こども 200円

＜家庭教育学級の合同研修会＞

家庭団らんの意義など学ぶ

(写真は)

城西小学校の佐々木美子ちゃんが作詞、作曲した「おへそ」のうた(全国的に流行しています)のけいこしているもよう。



2月7日、市民体育館を会場に、城南、城西、有誹地区の合同家庭教育学級(子どもをこまめに勉強する親の会)が開かれました。

この日は、父母とその家族が約50人ほど集まり、三地区を担当している学級主事を講師に魅力ある家庭づくりの講話や家庭におけるレクリエーションの実技など、3時間にわたって勉強しました。

家庭団らんの講話の中で講師が語された「家庭の団らんをこわすのは、母親よりもむしろ父親の方に多くあるので、父親はまず、家庭団らんの意義をかみしめ、1週間一度でもいっから、家族会を開くなどして、お互いの理解を深めるようにすべきだ」というお話が目玉されました。